

2025 年度アリゾナ大学海外臨床薬学研修 報告書

研修期間 : 令和 8 年 2 月 15 日～8 年 2 月 23 日

所属 : 5 年

学籍番号 : 170973321

氏名 : 加藤幹大

1. 参加目的

アメリカと日本の文化や薬学教育、医療の考え方などの違いを見ることで今後の生活や自分の将来につなげるために自分の視点を広げる。

2. 研修内容

【研修テーマ】アリゾナ大学での臨床薬学教育

【研修日程】

月日	研修内容
2 月 16 日	アメリカと日本の薬学部の教育の違いについて HIV/AIDS 治療について インドからアメリカで薬剤師として働くまで アメリカでの保険制度について
2 月 17 日	コミュニティファーマシストについて サウジアラビアからアメリカで薬剤師として働くまで Banner-University Medical Center の見学 ケースディスカッション
2 月 18 日	ポイズンセンターの見学 エマージェンシーメディスンファーマシーについて ケースディスカッション レジデンシー報告会
2 月 19 日	CVS 薬局の見学 薬剤師主導の調査研究について ケースディスカッション
2 月 20 日	薬学経済学について アリゾナ大学の講義参加 Pharmacy Museum の見学 エジプト・カタールの薬学教育について

【研修内容の詳細】

アメリカの薬学部の教育制度、保険制度の違いやHIV/AIDSの治療法、レジデンシー制度などについて教わった。アメリカでは2年間のPre-Pharmacyの後に4年間のPharmD programを修了することで薬剤師免許を取得する。基礎学習は2年間のPre-Pharmacyで学ぶため、PharmDに入ってから1年目から専門的な授業が行われている。また、実務実習に行く期間や時期などの違いを聞くことができた。患者の保険によって使用できる薬剤が異なるため、使用できる薬の選択も重要となってくる。

病院見学では日本と似た点が多かったが、調剤はテクニシャンが中心に行っていること、患者の入れ替わりが頻繁であること、医療費が高額であることなどの異なる点も多かった。

ポイズンセンターではアメリカ国内の共通の電話番号を用いて最寄りのセンターにつながるサービスを使用していた。子供の誤飲や動物に襲われた場合などの相談を受け、受診鑑賞などのアドバイスを行っている。アリゾナのポイズンセンターは一般公開されており、数少ない薬剤師中心のセンターである。

薬局での薬剤師の役割について学んだ。調剤は基本テクニシャンが行い、処方薬はボトルで患者に渡される。処方箋もリフィル処方箋が主流となっており、新規処方薬や患者からの希望があったときに服薬指導を行うなどの違いがあった。

3. 感想

アリゾナ大学での研修を通じて日本とアメリカの文化や教育制度の違いなどを学び、今後の薬剤師として医療への関わり方を考えるよいきっかけとなった。

1つ目として調剤業務はテクニシャンが中心として行っており、薬剤師は処方内容の監査や患者への服薬指導により多くの時間を割いている。日本で薬剤師の業務が対物業から対人業務へと移行している中で、対物業を他の人やロボットなどの技術を用い、薬剤師は服薬指導や監査、OTCのカウンセリングなどに対して積極的に取り組むことが重要である。

2つ目としてアメリカは国民皆保険制度でないため、病院の受診へのハードルの高さを知ることができた。保険が人によって異なるため、使用できる薬剤が異なることや風邪をひいても容易に医者のもとへ受診できないため、OTCを求めるなど、保険制度により医療へのアクセスが異なっていた。他国の医療制度を学び、自国の医療を改善することの重要性を再認識した。

3つ目はアメリカの薬剤師の学習意欲に刺激を受けた。アメリカの薬学部を卒業した後にレジデンシー制度を希望している人も多く、他国で薬剤師免許を取得した人もアメリカで薬学部にも再入学している人の話を聞く機会が多かった。話した人は皆学習意欲が高く、現地の講義を受けた際にも生徒が主体的に参加していた。日々進歩している医療についていくためにも主体的に学んでいきたいと思った。

最後に、このアリゾナ大学海外臨床研修に携わったすべての関係者の皆様に深く感謝申し上げます。